

2 地域連携教員について

(1) 地域連携教員を設置する目的

① 地域連携教員設置の目的

地域連携教員設置の目的は、地域連携に関する学校側の窓口を明確にすることで、連携活動を進めていく上での校内の体制を整備し、学校と地域が連携した教育活動を効果的・効率的に展開していくことです。それにより、児童生徒の学習意欲や学力、社会性の向上等、児童・生徒の生涯にわたって生きる力を育むとともに、「地域とともにある学校づくり」を目指していきます。

第1 目的

各学校に地域連携に携わる教員を「地域連携教員」として設置することにより、学校と地域が連携した活動を、生涯学習の視点から効果的・効率的に展開することを目的とする。《地域連携教員の設置に関する指針》

参考資料P48

② 地域連携教員の制度が目指す連携体制

地域連携教員の制度は、連携活動がどのような体制で進められていくことを目指しているのでしょうか。図2.1に示すように、地域連携教員は学校側の窓口として、管理職、各主任、学級担任等とともに連携活動を計画します。この計画を基に、地域側の窓口であるコーディネーターが、それぞれの連携活動に適した人材を学校に紹介してくれます。

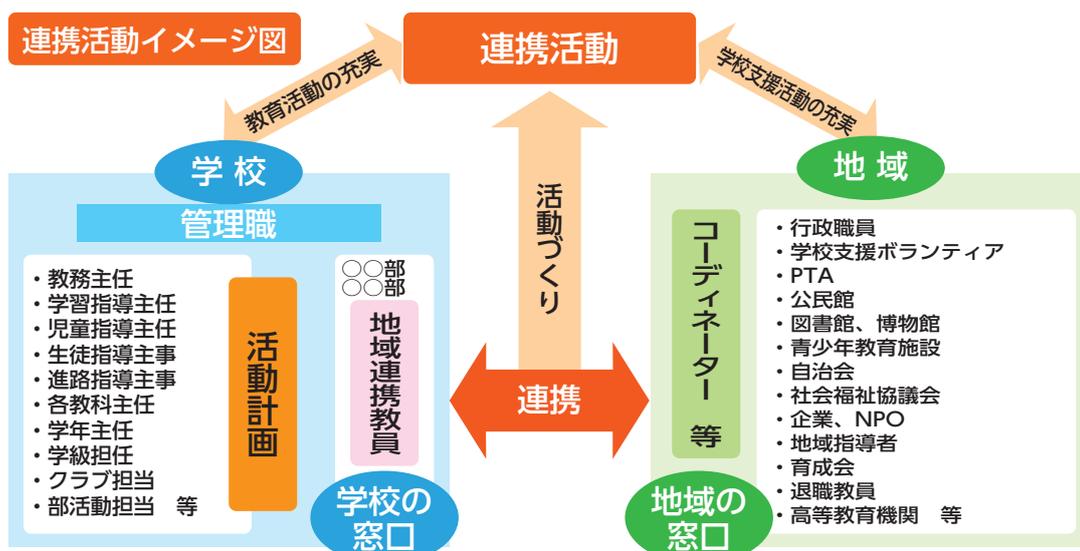


図 2.1 地域連携教員の制度が目指す推進体制

このような地域連携教員とコーディネーターとの連携により、効果的・効率的に連携活動が推進されます。また、連携活動の実施や評価においても、地域連携教員がコーディネーターと協力し、よりよい活動づくりを進めていきます。

(2) 地域連携教員の活動とは

① 地域連携教員の職務

地域連携教員の職務内容としては、次の事項が指針により示されています。各学校の状況に応じて、何をどこまで担っていくのか検討してみましょう。

1 学校と地域が連携した取組の総合調整に関すること【総合調整】

この事項は、「**プランナー(企画者)**」としての役割です。学校全体の連携活動のマネジメントや体制づくりを行います。

□ 地域連携に関する計画の作成及び見直し

- ・計画の作成（推進目標、努力点、具体策及び活動計画等）及び見直し
- ・年間活動計画の作成及び見直し、年間指導計画への位置付け 等

実践編P23

□ 地域連携に関する校内研修の企画・運営 等

- ・地域連携に関する知識・技術等の研修 等

実践編P25

2 学校と地域が連携した取組の連絡調整や情報収集・発信に関すること【連絡調整や情報収集・発信】

この事項は、「**コーディネーター(調整者)**」としての役割です。コーディネーター等の地域人材と連携しながら、連携活動を進めていきます。

□ 地域連携に関する活動の連絡調整

- ・地域連携に関する教育事務所・市町教育委員会等との連絡窓口
- ・連携する団体やボランティアとの連絡調整
- ・コーディネーターとの連絡調整 等

実践編P47

実践編P29

□ 地域連携に関する情報収集・発信 等

- ・学校の情報発信と地域の情報収集
- ・地域連携に関する研修会等への参加と校内への報告 等

実践編P35

3 学校と地域が連携した取組の充実に関すること【取組の充実】

この事項は、「**アドバイザー(助言者)**」としての役割です。社会教育主事講習で学んだ社会教育の手法等を生かし、他の教員の活動を充実させるための助言をします。

□ 地域連携に関する活動の実践

- ・担当教科や校務分掌等に応じた地域連携に関する教育活動の実践 等

□ 地域連携に関する活動への支援

- ・教職員が行う地域連携に関する教育活動への支援 等

実践編P33

□ 計画や活動についての評価 等

- ・今年度の計画や活動等についての評価と次年度への活用 等

実践編P39

②地域連携教員の活動状況

地域連携教員の指名状況としては、「地域連携教員の設置に関する指針」においては、原則として「校長、教頭でない者」とされていることから、教諭が73.6%と最も多くなっています(図2.2)。これは、地域連携教員に教諭が指名されることにより、従来から連携窓口を担ってきた教頭等と役割分担を行うことで、連携活動の一層の充実を図ることを目指しています。

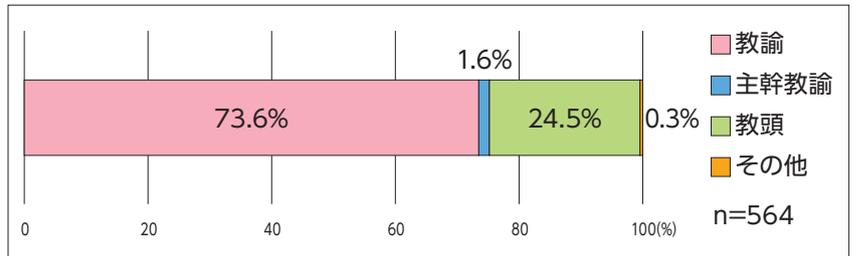


図 2.2 地域連携教員の指名状況 (職名別)

栃木県総合教育センター調査 (平成 28 年)

地域連携教員が担っている役割としては、「計画の作成・見直し」「連絡調整」「情報収集・発信」が最も多くなっています。「計画の作成・見直し」については、「地域連携全体計画」や「地域連携年間計画」の作成等、学校全体の連携活動の調整を行っています。また、「連絡調整」については、コーディネーターやボランティアとの連絡調整や連携機関及び行政等との連絡窓口となっています。そして、「情報収集・発信」として、校内の連携活動に関するニーズ調査や連携活動の地域への発信等を行っています。

一方で、「計画や活動の評価」や「校内研修の企画・運営」については、他と比べて低くなっており、今後の取組が期待されている状況です。

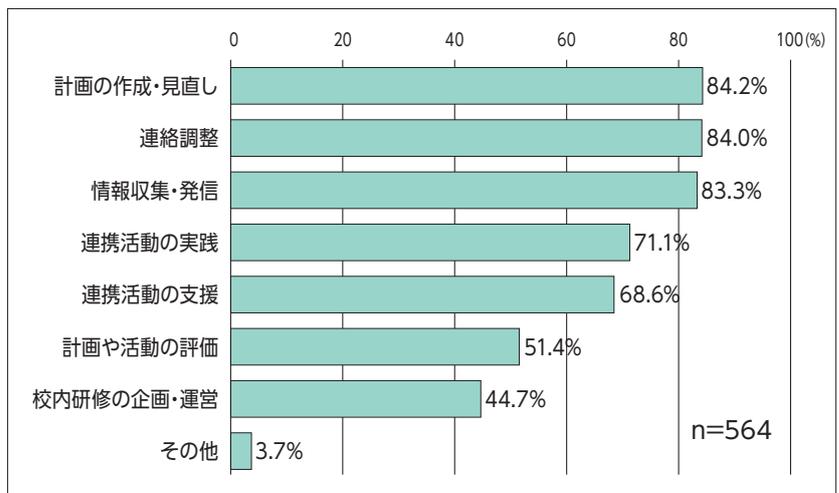


図 2.3 地域連携教員として担っている業務 (複数回答)

栃木県総合教育センター調査 (平成 28 年)

以上のように地域連携教員は様々な業務に取り組んでいますが、地域連携教員の設置に「重要性」を感じるかという問いに対しては、「とても感じる(38.5%)」、「少し感じる(48.4%)」と、約9割の地域連携教員が設置の重要性を感じている状況です。

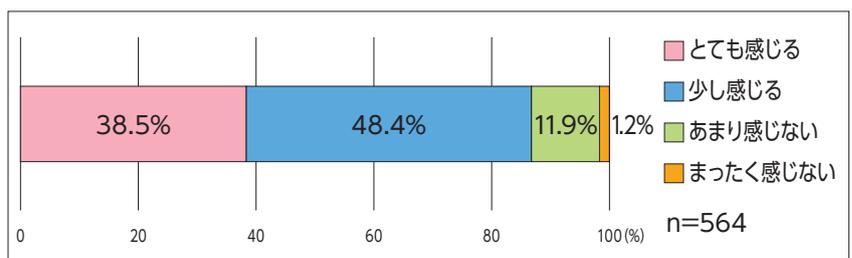


図 2.4 地域連携教員の設置に重要性を感じるか

栃木県総合教育センター調査 (平成 28 年)

(3) 地域連携教員の活動事例

ここでは、地域連携教員がどのような活動をしているのかを、地域連携教員の視点から紹介します。

①市貝町立市貝小学校 教諭 大根田 裕一 氏

私は地域連携教員として、「地域資源や地域人材を活用した連携を進めるための校内研修」や「地域資源、地域人材を活用するための校内のニーズ調査」等を行い、教職員の連携活動に対する理解や校内の推進体制づくりを行っています。その他、特徴的なものとして次の2つの取組を紹介します。



○「地域資源（人、もの、こと）活用授業一覧」「地域連携推進により期待される効果一覧」の作成

地域の様々な教育資源の効果的な運用をめざすために、「地域資源」の洗い出しを行い、「地域資源（人、もの、こと）活用授業一覧」、「地域連携推進により期待される効果一覧」としてまとめました。これにより、児童の発達課題の解決と「育てたい児童像」の体系化、「活用する力」「生きる力」を連携活動を通して育むための視点が明らかになりました。

○学校支援ボランティア活動の事後評価

活動終了後には、ボランティアと活動内容の成果や課題、改善点等について話し合いをもったり、「ふりかえりカード」に記入してもらったりしています。それをもとに「学校支援ボランティア活動カード」にまとめ、次の活動や次年度の活動につなげられるようにしています。

②さくら市立熟田小学校 教諭 阿久井 克清 氏

私は地域連携教員として、次のような取組を行っています。

○「人材活用年間活動計画」の作成

地域連携に関する研修を現職教育に位置付け、学校職員だけでなく、さくら市教育委員会事務局生涯学習課や「学校と地域を結ぶコーディネーター」と連携し、「人材活用年間活動計画」を作成しました。同じ場で話し合いを持ったことにより、学校側だけでは気が付かないような細かな点まで共通理解を図ることができました。



○「人材活用実施計画カード」の作成

活動の継続性を高めるために「人材活用実施計画カード」を作成し、記録を累積しました。これにより、担当者や担当学年が変わっても過去の資料を参考にすることで、活動の内容の詳細を把握することができました。カードの活用とともに、写真も保存しており、さらに活動の様子が分かりやすくなっています。



③足利市立愛宕台中学校 教諭 半田 昇 氏

本校では、「自治会等へのボランティア派遣」や「ボランティア団体による防災ワークショップの実施」、「公民館主催講座への中学生ボランティアの派遣」をはじめとする、様々な連携活動を実施しています。これらの活動が円滑に、そして効果的に行われるよう、地域連携教員として次のような取組を行っています。



○「公民館職員との定期的な話し合いとつながり」

毎年年度当初に行われている「学社連携連絡会議」は、各校の「地域連携教員」と「公民館職員」との顔合わせや年間活動計画等の情報共有ができる貴重な機会となっています。この会議への出席が、地域連携について日頃から気軽に話し合える人間関係づくりの一つになっています。公民館職員の中には、社会教育主事の資格を持った職員もいるので、日頃から時間を見つけて直接、公民館で、あるいは、中学生のボランティア活動場所で話し合うこともできます。日頃からの公民館職員をはじめ各種団体の皆さんとの「人と人とのつながり」が地域連携の大切なステップになっていると思います。

④栃木県立宇都宮南高等学校 教諭 針谷 英子 氏

学習や部活動に忙しく、地域活動に関わる機会が減りがちである本校生徒の現状に対応するため、公開講座「宇南アカデミー」や部活動、生徒会活動等で地域における活動を体験できる場を設けています。



○関係施設との連携

本校は雀宮地域との関係が深く、雀宮地域の市民センター、宇都宮市立南図書館と連携した活動が多くなっています。関係団体の主催する祭に参加する際には、地域連携教員が窓口となって連絡調整に当たっています。

宇南アカデミーにおけるコーディネートの例

- 1 企画立案：本校職員の専門性や生徒の興味関心を考慮して企画を立案。校外団体との連絡調整（市民センター、大学、博物館等との連携）
- 2 講師の依頼：本校職員、外部講師
- 3 広報：チラシ、ポスターの作成。チラシは雀宮地区、横川地区市民センターから地域に回覧。ホームページへの掲載。本校生徒・保護者への広報は一斉メールを活用。
- 4 講座の実施：本校生徒と地域住民の方が交流できる時間を設けるよう配慮。
- 5 実施後：反省および感想の共有等



2 地域連携教員について

⑤ 栃木県立小山北桜高等学校 主幹教諭 岩本 敏央 氏

本校の生徒たちの学んだ成果を生かして、「おやま和牛入りかんぴょうカレーパン」や「北桜御膳」を開発し、地元の大型店舗等と連携して販売しています。また、小山商工会議所との「桑のミクスプロジェクト」においては、地元のだちょう園と連携して、生徒が開発した料理の商品化を目指しています。



北桜御膳



だちょう園との連携



開発した「みそチキン」

○商品化までの地域連携の流れ

- 1 商品開発：学科の特性を生かした地域資源を活用した商品開発を行いました。
- 2 市場調査及び技術指導：小山市の道の駅や栃木銀行等の協力により市場調査（顧客ニーズ）を行ったり、地元の日本料理人のアドバイスをいただいたりしました。
- 3 協力業者の発掘：協力事業所の発掘を試みましたが、適当な業者が見つからず、これまでの商品開発で培ったネットワークを活用して、商品化の目処が立ちました。
- 4 販路の開拓：小山商工会議所で開かれた小山市の大規模店舗会議において、商品の説明の機会をいただき、開発した商品の販路を開拓することができました。

⑥ 栃木県立那須特別支援学校 教諭 大谷津 修司 氏

本校では、ボランティアスクールや地域交流活動等、様々な連携活動を実施しています。特に地域交流活動については、近隣の公民館と連携しながら、公民館が主催する「コミュニティまつり」に生徒が参加し、地域住民や近隣小中学生との交流を深めています。



○コミュニティまつりへの参加

近隣公民館等と連携して実施した「大山コミュニティまつり」における地域連携教員としての取組を以下に示します。

	内容	地域連携教員の動き
事前	大山公民館総会	・年間参加活動計画の確認 ①大山コミュニティまつり②「大山ふれ愛・花いっぱい」事業交流会③高齢者部会への学校公開、なとく祭
	年間行事打合せ (大山コミュニティまつり打合せ)	・大山公民館職員と行事内容の打合せ ①プログラム確認②参加生徒の確認③活動内容の確認 ④作品・製品の展示の実施
	当日に向けての準備	①チラシの掲示②参加生徒への連絡通知書の配布 ③作品・製品の展示準備と展示
当日	大山コミュニティまつり 参加者：大山地区の住民、大山小学校、 西那須野中学校、那須特別支援学校	①プログラムの確認②引率教員・公民館職員との連絡調整③参加生徒への連絡調整④作品・製品の運搬 ⑤作品・製品の展示⑥控え室準備⑦昼食券配布等
事後	広報と反省	①地域連携ニュースへの掲載②来年度の参加への検討